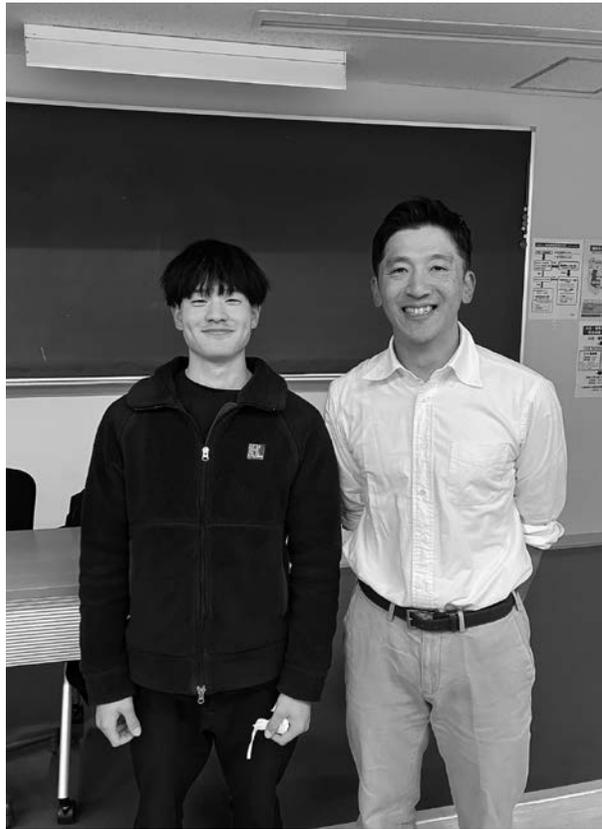


講演会

「アスレティックトレーナーから見たパリ五輪」

人間科学部 人間科学科2年 古橋達也



(右) 一柳武男さん、(左) 古橋達也

2024年12月10日に、神奈川県立神奈川大学人文学会主催の「アスレティックトレーナーから見たパリ五輪」という講演会が開催されました。私は将来的にトレーナーの仕事を目指しており、世界で活躍するアスレティックトレーナー(A.T.)のリアルな声を聞きたいと強く希望していました。この度、

ゼミの先生である北岡祐教授が、本講演の講師として米国公認A.T.の一柳武男さんを招いてくださいました。講演では、大学生のうちから身につけるべき資質、A.T.を目指した経緯と役割、パリ五輪の裏側、についてお話しいただきました。

大学生のうちから身につけて欲しいこととし

て、一柳さんは、「values(価値観)の創出」と「マインドセット」の重要性を挙げていました。自分が何に対して幸せや楽しさを感じるか、つまりどのようなことに価値を見出すのかを見つけることが大切だと強調されていました。また、ちょっとしたフィードバックの受け取り方や考え方で、結果やポテンシャルが大きく変わるともお話しされていました。私自身の解釈としては、大学生のうちにとどんな人と出会うかが、その後の思考やメンタリティを大きく形成するということだと思いました。さらに共感したのは、トレーナー業には「コミュニケーション力」が非常に重要であるという点です。どんなに技術や知識があっても、それをうまく伝えたり、納得してもらえらるよう寄り添ったりする能力がなければ、優秀なトレーナーにはなれないということを感じました。

一柳さんは、パリ五輪の男子バスケットボール日本代表チームのトレーナーを務められており、パリ五輪を中心にA.T.の役割についてお話しくださいました。まず印象に残ったのは、現地のホテルで自分の部屋をケアやトレーニング室として活用していたことです。プライベートな空間がない

ということは想像以上に精神力を要する仕事であり、驚きました。パリ五輪では、私の想像をはるかに超える過密スケジュールが組まれていました。国を跨いで練習試合が当たり前で、移動中に体を休めるしかないといった状況が続いていました。もし日本のバスケが世界で認められるようになれば、自分たちの行いたい場所や時間で練習試合ができるようになるのだらうと感じました。夜には八村選手をはじめとする選手たちとUNOをしてリラククスする時間を共に過ごしていたとのことでしたが、何回勝ったかを競い合い、「ウノリンピック」を開催していたそうで、一柳さん流の信頼関係の築き方だと感じました。

最後に、ゼミの他の学生たちのコメントをいくつか紹介いたします(北岡)。「海外に出て行くなど、自ら新しい環境に飛び込むことで得られるつながりが、将来のチャンスにつながる」、「人とのつながりは1バターンではなく、それゆえに難しさがあるが、うまくいったときの達成感は大い」、「スポーツを支える側の役割は大きい」と思った、「オリンピックの現場で起きた事の生の声を聴けて改めて感動をありがとうという気持ちになった」などのコメントが寄せられました。ゼミ生の中にも、選手としてパリオリンピックを目指していた学生や、練習パートナーとして実際に現地参加した学生もあり、誰もがいつになく真剣に耳を傾けていました。今後、一柳さんのサポートのもとで、日本のバスケ界がさらに盛り上がりを見せることを北岡ゼミ一同、応援しています。



北岡ゼミの学生を中心とした当日の集合写真